

平成 29 年度

**B 日程 入学試験**

**国 語**

**注 意**

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 14 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された文字数の 8 割以上は書きなさい。ぬき出し問題では、指定された字数で答えなさい。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

1 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 大学では医学をオサめた。
- 2 水玉モヨウの服を着る。
- 3 投票でサンピを問う。
- 4 方位ジシンを持って山に行く。
- 5 交通量が多いのでリツキヨウをわたった。
- 6 余計な説明を省く。
- 7 武家の屋形が残っている街。
- 8 平生の努力が大切だ。

2 次の1～4の「」内はそれぞれ同じ部首をつけ足すことで漢字として完成します。その部首を書きなさい。また、その部首の意味としてふさわしいものを下のア～キの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

(例) ……【田 泉 吉】

部首「糸」、意味「ア」

1 【才 分 化】

ア 糸に関することを表す。

イ 土地のようすを表す。

2 【甬 束 嶋】

ウ 体のかたちやようすを表す。

エ お金に関することを表す。

3 【車 氏 占】

オ 手でする動作を表す。

カ 家や建物のことを表す。

4 【金 艮 夬】

キ 道に行くことを表す。

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

夏のおわりに

須田 慎吾

① 夏が笑いながら

かえっていった

遠い青空の向こうに。

ぼくは水色の ② びー玉をポケットに入れたまま

毎日毎日昼寝した

ほら手のひらをかへしながら

ああびー玉はきんきんひかる。

そしていま、

秋がその傍に寝そべっている

鼻すじの通った美しい横顔で

秋が…ごろごろ寝そべっている

1 線①「夏が笑いながら／かえっていった」とありますが、それはどのような「笑い」ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 寂しさを押し隠してこぼれる笑い

イ 伸びやかでなやみのない明るい笑い

ウ 重い雰囲気をつき飛ばす豪快な笑い

エ 声をひそめて交わし合うしのび笑い

オ 心の底からおかしくてたまらない笑い

2 線②「びー玉」とは、詩全体でどのようなものだと読みとれますか。次の

中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 青空の色をもらい受け、真夏の力強いエネルギーをひめているものがやさしい夏の思い出が詰まった宝物として大切にしているもの

ウ いつも「ぼく」のそばにいて「ぼく」をなぐさめてくれるもの

エ 光の変化から「ぼく」に刺激的なよろこびをあたえてくれるもの

オ 「ぼく」につき従って、「ぼく」の思いどおりに動いてくれるもの

3 線③「ぼくは、／夏の匂いを思い出せないでいる」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア あまりにも昼寝をしすぎたから。

イ 夏の匂いが好きではないから。

ウ 秋の美しさに見とれているから。

エ すぐ目の前に秋が迫っているから。

オ 匂いはすぐに消えてしまうから。

そして<sup>③</sup> ぼくは、

夏<sup>にお</sup>の匂いを思い出せないでいる

夏の匂いを思い出せないでいる。

夏はもう帰ってしまったんだよ、と

<sup>④</sup> やさしいびー玉がひかっている。

ぼくたちはもう、

<sup>⑤</sup> ここを<sup>た</sup>発たなければいけない。

『ぼくのめがかげろうになるとき』

てらいんく  
による

4 — 線④「やさしいびー玉がひかっている」とありますが、ここからどのようなことが読みとれますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア ビー玉のやわらいだ光から、「ぼく」は夏の終わりを受け入れつつあること  
イ たいくつな日々を送る「ぼく」の気持ちにビー玉は共感してくれたこと  
ウ 寝ぼけている「ぼく」をビー玉がやさしく起こそうとしていること  
エ 「ぼく」が寝ている間、ビー玉はずっと見守ってくれていたと気づいたこと  
オ 水色のビー玉がいつの間にか白くなっていて「ぼく」が驚いていること

5 — 線⑤「ここ」とは、どのようなところだと読みとれますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 疲れた人をいやして明日に向かう勇気をくれるところ  
イ めいっぱい遊んだ楽しい思い出であふれているところ  
ウ 自分にしかない大切なものを見つけられるところ  
エ だれにも怒られずに、本当にやりたいことを探せるところ  
オ たくさん時間があって何をしてもしても自由だと思えるところ

4 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ふだんの生活のなかで誰かに問いかけられて、<sup>①</sup>はっとした経験はないでしょうか。

「どうしてお前は他人の話を聞かないんだ」と言われたらどうでしょう。言われる相手にもよると思いますが、もし自分はちゃんと他人の話を聞くと思っていたとしたら、はっとするかもしれません。もしかしたら周りからはそう見えるのかもしれない、あるいは自分が思っているだけで、実際には他人の話をきちんと聞いていないのかもしれない。

心の奥を覗きこまれたようで、はっとすることもあるかもしれません。

「お前、○○ちゃんのこと好きなんじゃないの？」

な、わけないだろう、と反論するかもしれませんが。でもそう言われることで、それまで意識してなかったけど、自分は○○ちゃんのことを好きなのかもしれないと思うかもしれません。意地悪したり、妙にかまったりしていたのは、そういう気持ちがあったのかもしれない。いや、そんなことない。いや、そうかも。<sup>(注1)</sup>葛藤しているうちに、気がついたら、その女の子のことばかり考えている。

<sup>②</sup>問われるということは、何かを発見するきっかけにもなるのです。

そのことに気づかせてくれたインタビュがあります。

話を聞いた相手は、バレリーナである吉田都さん。

彼女はイギリスのロイヤルバレエ団のプリンシパルを長くつとめました。プリンシパルとは主役を踊るバレエダンサーのこと。バレエの本場であるヨーロッパで一、二を争う代表的なバレエ団のトップだったのです。

誰にも負けないほどの高い技術と繊細な動きが彼女の武器でした。でもその一方で、もっと表現力を豊かにすることを求められていました。

彼女を育てた世界的な振付家であるピーター・ライト氏は言いました。

「妨げになったのは、日本人特有の控えめな性格です。都はシャイで自分を表現できずに苦労していました」

でもあるときから、彼女は大きく変わったように、ぼくには思えました。日本での公演を立て続けに見て、前の彼女とは明らかに違うと感じたのです。技術の質の高さだけでなく、観客をわしづかみにして、すべてを味方につけてしまうような<sup>③</sup>存在感を獲得しているようでした。

それをピーター・ライト氏にぶつけてみて驚きました。彼も同じことを感じていたということです。ぼくのような素人だけでなく、彼のようなプロ、しかも彼女をずっと見続けてきた人物も同じことを感じていたということです。

ぼくは知りたくなりました。

なぜ彼女は人を感動させることができるようになったのか、そして人を感動させるものとはなんなのだろう。これは仕事ではありませんでした。個人的にどうしても聞いてみたくなったのです。

前に一度インタビューしていたこともあり、彼女は忙しい合間に時間を作ってくれました。

東京都内にあるカフェで、ぼくがそのことを切りだすと、彼女は<sup>④A</sup>首を傾げました。

「そう言ってもらえるのはうれしいけれど、自分ではよくわかりません」

「でも何か、自分のなかで変化があったのではないですか」

ぼくはそう続けました。

彼女は考えこみ、そのたびぼくは問いかけました。

すると、彼女がふと思いついたように口を開いたのです。

「もしあるとしたら、怪我<sup>けが</sup>が影響<sup>えいきやう</sup>しているかもしれません」

そう言うってから、都さんはゆっくりと記憶<sup>きおく</sup>をたどっていきました。

彼女は五か月前に、ひどく腰<sup>こし</sup>を痛め、動けなくなっていました。でもそれは最も怪我をしてはいけなときでした。イギリスのテレビ局BBCが翌日の舞台<sup>ぶたい</sup>を生中継<sup>なまなかけい</sup>することになっていたのです。BBCがロイヤルバレエ団の公演を生中継するのは十一年以上のこと、それは彼女にとって、文字通り<sup>⑤</sup>となるはずでした。

でも腰はダンサーの命、踊れるはずありません。

彼女はひどいショックを受け、役がつとめたその舞台の放送を観<sup>み</sup>ることすらできませんでした。

しかもあまりの痛さから、もう二度とバレエを踊ることができないのではという恐怖<sup>きょうふ</sup>が、彼女を襲<sup>おそ</sup>いました。

そのとき助けてくれたのが、友人たちでした。食事<sup>しょくじ</sup>の支度<sup>したく</sup>から、身の回りの世話まで、友人たちがすべてやってくれたのです。

そのときです。

すべてを犠牲<sup>ぎせい</sup>にしてバレエを優先<sup>えんせん</sup>してきた彼女の心のなかに変化が起きます。

「ずっとバレエが一番でした。でもわかりました。バレエよりも大切なものがあることを。家族や友人、そして人が何より大事だと」

彼女は<sup>④B</sup>穏やかな表情で続けました。

「バレエが一番じゃなくなっただけです」

その台詞<sup>せりふ</sup>を聞いたとき、ぼくは震えるほど感動しました。

バレエのためにすべてを手放してきた彼女が、バレエより大切なものを見いだした瞬間<sup>しゅんかん</sup>、その踊りは観客たちをより惹きつけ

るようになったのです。

でも、<sup>⑥</sup> ぼくが感動したのは、そのことだけではありません。

それまでぼくは、インタビュールというのは相手の頭のなか、心のなかにすでにあることを引きだすものだと思っていました。でも都さんへのインタビュールは違いました。彼女は何度も問いかけられたことで、自分の踊りがより観客の心を震わせるようになった理由に、初めて思いついたのです。

インタビュールとは相手の意識のなかにすでにあることを引きだすだけではない。相手のまだ気づいていないことを引き出すことも、またインタビュールなんだ。

その発見に、ぼくは感動したのです。

彼女が無意識の領域に光をあてて（注2）凝視しようとしてくれたことに、感謝しています。

そのときから、ぼくのインタビュール観は大きく変わりました。問われることで相手も新たな発見をするような、そんなインタビュールをしてみたいと願うようになりました。

それはインタビュールする側にとつても、される側にとつても意味のある時間になるのではないでしょうか。

（松原耕二『聞く力、話す力 インタビュール術入門』河出書房新社 による）

注1 葛藤している 〓 気持ちが悪くならない

注2 凝視しよう 〓 目をこらしてじつと見つめよう

1 ——— 線①「はっとした」とありますが、このときの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 予想していなかった質問を突然されたことへの焦り  
イ すぐに答えを伝えることができないことへの戸惑い  
ウ 相手がどんな答えを待っているのか分からない苦しみ  
エ 今まで分からなかった自分の一面を指摘された驚き  
オ これまで自分が隠していた心の奥をのぞかれた怒り

2 ——— 線②「問われるということは、何かを発見するきっかけにもなるのです。」とありますが、吉田都さんがインタビュールで発見したものとは何ですか。それが書かれている二十五字の表現を文章中から探し、初めと終わりの三字をそれぞれ書きぬきなさい。



3 ———線③「存在感を獲得」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 控えめな性格から社交的な性格に変わり、表現力が増したということ

イ ロイヤルバレエ団のプリンシパルになって自信を持ったということ

ウ バレエ団のトップとして観客からの評価が高まったということ

エ 振付家の指導に従い、動きよりも表現力の向上を優先させたということ

オ 技術の高さや動きの繊細さだけではなく表現力をも高めたということ

4 ———線④A「首を傾げ」、④B「穏やかな表情」から読みとれる気持ちとしてふさわしい組み合わせを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア A 困惑こんわく | B 安心

イ A 当惑とうわく | B 納得なつとく

ウ A 拒絶きょぜつ | B 安心

エ A 落胆らくたん | B 歓喜かんき

オ A 恐縮きようしゆく | B 納得

5 ⑤ にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 一石二鳥 | イ 起死回生 | ウ 独壇場どくだんじょう | エ 晴れ舞台 | オ 有終の美

6 ———線⑥「ぼくが感動したのは、そのことだけではありません」について、次の二つの問いに答えなさい。

(1) 「そのこと」とは、どのようなことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア ロイヤルバレエ団の公演のテレビ中継に出られなかったことに諦めあきらめがついたこと

イ 二度とバレエを踊ることができないかもしれないという恐怖に打ち勝ったこと

ウ バレエの質が向上したのは、バレエを最優先にするのをやめたからだということ

エ バレエのためにすべてを手放してきた彼女が人生の他の楽しみを見出したみいだこと

オ 怪我を乗り越えるなかで他者から押しつけられた価値観を受け入れるようになったこと

(2) 「ぼく」は、(1)「そのこと」以外で何に対して「感動した」のですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 今まで意識していなかったインタビュウの持つ意味にはつきり気づいたこと

イ 仕事としてではなく個人的なインタビュウでもよい結果を出せたこと

ウ インタビュウで相手の無意識の悩みに答えを与えられたこと

エ 話しながら相手の頭のなかや意識に対して光をあてることができたこと

オ 何度も同じ質問を繰り返すことこそが最上の方法だと理解したこと

7 次の中から文章の内容と合っているものには○、合っていないものには×を、それぞれ記号で書きなさい。ただし、すべて同じ記号で答えてはいけません。

ア 誰かに問いかけられたために意識的に自分の考えを変えてしまうことは、ふだんの生活のなかでよくあることだ。

イ 筆者はピーター・ライト氏と同じように感じていたと知って、吉田都さんに感動をうむものとは何かを聞きたくなった。

ウ よいインタビュウのためには、質問者が努力するだけではなく、回答者が自分の心のなかを見つめる必要がある。

エ 吉田都さんが観客をより感動させられるようになったのは、怪我を機にバレーより家族や友人が大事だと考えが変わったためだ。

オ インタビュウを意味のある時間にするには、忙しくても時間を作ってくれる信頼関係を築いておかなければならない。

〔5〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい（なお、図や写真とともに省略した部分があります）。

クルマなどを割るという点でとりわけ注目されるのは、車を使ってクルマの実を割る行動だ。東北地方の仙台や秋田、北海道の札幌などにすむハシボソガラスは、オニグルミの実を車に轢かせて割る。東北大学の心理学の教授（当時。現在は白鷗大学教授）、仁平義明先生と私、それから東京大学の私の研究室にいた足立泰啓さん（現在、NHK職員）は、仙台でこのガラスの行動の詳細を調べた。少しくわしく述べると、次のようになる。

この行動がよく見られるのは、秋から春までの間だ。オニグルミの実は、東北では一〇月頃に多数実る。ガラスはこれらの実を好んで食物として利用し、同時に地表付近のいろいろなところに貯えておく。冬の間、車利用に用いているのは、秋のうちに貯えておいたものだ。オニグルミは、東北地方では河川沿いをはじめとしてあちこちで多数見られる。

ガラスはまず、クルマをくわえて路上に降り、タイヤが通りそうな位置に置いたのち、近くの樹上や看板の上、あるいはガードレールの上で待つ。車が轢いていくと飛び出していき、砕けた中身をつまんで食べる。①きっちりと仕事をこなしている、という印象を受ける。

ただし、路上にクルミを置いて割るといのは、思うほど簡単なことではない。

②

ラスはクルミがなかなか車に轢かれないうと、路上に降りてクルミの位置を少しずらす。この辺でいいかな、とでも言いたげに首をかしげる様子などが変に人間くさい。この行動を何度か試みることもある。秋田の<sup>おおまがり</sup>大曲で観察していた例では、微妙なところでタイヤに轢かれず、何度も何度も位置を変えらることを三〇分ほどもやっているカラスがいた。結局うまくいかずに、あきらめてしまうこともある。

おどろくべきことに、信号を利用してクルミを割るものもある。車が流れている時には、クルミをくわえたまま信号の付近で待機する。信号が赤になると、車が止まる。待つてましたとばかり、カラスは車の方にとことこ歩いて行き、タイヤの前にクルミを置く。置いたあとは、信号が青になると車が走り出すのを近くで待つ。少し心配げな様子を見せることもあるが、クルミはタイヤのすぐ前に置いてあるので、一〇〇%割れることになる。

これらのカラスは、人間社会が発達させた高度な科学技術を利用して生きていると言える。世界広しと言えども、これほど巧みに<sup>めずらしい</sup>人間社会とかかわっている生きものは珍しい。

車を利用したクルミ割り行動は、アメリカのカリフォルニアなどいくつかの地域でも報告されている。しかし、多くは不完全な観察にもとづくもので、空から落として割れなかった木の実を車がたまたま轢いて行った例などがふくまれている。日本の東北地方などで見られるのは、まぎれもない車利用であり、これほどカラスの生活にふつうに<sup>とこ</sup>溶け込んだ車利用の事例は、世界でもほかに例がない。日本のハシボソガラスは、世界に誇るカラスと言ってよい。イギリスのBBC（英国放送協会）などが、わざわざ映像を撮りに来るほどだ。

ただし、車でクルミを轢かせる行動は、地域にすむハシボソガラスの一部の個体でしか見られない。また、何をどこまでやるかについても、個体差がある。赤信号で止まる車の前にクルミを置く個体は、仙台の東北大学構内付近にすむ特定のつがいの個体だった。この個体が消失、おそらく死亡したあと現在に至るまでの二〇年ほど、同じ行動を見せるカラスは現れていない。秋田の大曲にすむハシボソガラスの中には、交差点を頻繁<sup>ひんぱん</sup>に利用する鳥がいるが、赤信号で止まる車の前に出て行ってクルミを置く個体はいない。

車を利用する行動を始めたのは、とてもひらめきのよい個体ではなかったかと考えられる。同じことを見ても、何も感じないものもいれば、あくそうなのか、と思いつくものもある。これは人間世界でも同じだ。カラスは個体差が著しい。採食や移動、定住の程度などについて調べてみても、個体差の方が大きくて、種や集団の特性を<sup>注1</sup>一般化するのはむずかしい。おそらく、とりわけひらめきのよい個体、思いきって言えば「天才カラス」が現れ、車にクルミを轢かせることを始めたのではないかと考えられる。行動は周囲の個体に広がっていっただろうが、ある個体は、道路に直接出ることをせず、電線から道路にクルミを落と

した。別の個体は、道路に出てタイヤの通りそうなところにクルミを置いた。また、さらにかしい個体は、赤信号で止まっている車のタイヤの前にクルミを置き始めた、といったことがあったに違いない。ある程度、学習や試行錯誤によって、ステップアップしていった個体もいるだろうが、前記のように、<sup>④</sup>信号で止まる車の前に出ていくような個体はごくごく限られていた。この個体も、おそらく天才ガラスだったのではないかと思われる。

<sup>⑤</sup>一方、車を利用したクルミ割り行動が見られる環境にも注目したい。この行動が見られるのは、特定地域の比較的限られた場所だ。これらの場所には、いくつか共通する点がある。一つは、車を利用する場所の近くにクルミの木が多数ある。あたりまえと言えどあたりまえだが、資源の多いところで独自の資源利用の文化が発達する好例と言える。二つ目、車の利用行動が見られる場所には、車が停車または<sup>(注2)</sup>徐行する交差点やカーブ、急な坂、<sup>(注3)</sup>ロータリーなどがある。こうした場所では車の速度が落ちるので、クルミの実を置きやすいのではないかと思われる。また、割れた実を食べに行くのにも都合がよいに違いない。

三つ目、クルミの実が置かれる道路は、適度な車の交通量がある場所だ。適度な交通量とは、路上にクルミを置くためにカラスが長時間待つことがなく、かつ、クルミを置きに行く時も割れたクルミを食べに行く時も、カラス自身が轢かれることのない交通量のことである。車が行きかう道路に出て行ってクルミを置くというのは、それなりに危険なことだ。慎重にことを進める必要がある、そのために交通量を見はからうのはきわめて重要なことなのだ。

この三つの条件を満たす最良の場所は、自動車学校だ。実際、仁平教授と私が中心になって行なったアンケート調査の結果によれば、仙台でカラスによる車の利用行動が始まったのは、花壇自動車学校というところである。この自動車学校は、広瀬川沿いにあり、川のほとりにはオニグルミの木が多数生えている。カラスは河原から自動車学校にクルミの実を次々にもってきて、道路に置く。車の走る構内には、カーブや交差点のようなものがいろいろある。交通量も「適度」だ。運転する側も、多少、心之余裕があるからか、置かれたクルミが車の走る位置から少しずれていても、わざわざ方向を変えてクルミを割って行くようなことをする！

こうしたすぐれた条件があったからか、ほかでは一九九〇年前後からカラスの車利用行動が始まったのに、この自動車学校では一九七〇年代から見られている。<sup>⑥</sup>自動車学校で十分練習を積んだのち一般道路に出て行った、と言えなくもない。

いずれにしても、カラスはしっかりと地域の状況を見きわめ、行動しているとしか言いようがない。

<sup>⑦</sup>おもしろいことに、ハシブトガラスはこの車利用行動を見せない。ハシボソガラスのそばにいて、ハシボソのやっていることを見ていても、決して自分から車にクルミを轢かせることはしない。ハシブトの方がハシボソよりも劣るのかと考えてしまうかもしれないが、そうではないようだ。ハシブトガラスは、このなりゆきを見ていて、車がクルミを轢いていったあと、路上にいるハシボソを追いやり、砕けた実を横取りすることがある。

道路にクルミの実を置くことは、それなりに危険をとめない、場合によると車に轢かれて命を落とすこともある。ハシブトガラスは、危ないことはハシボソにやらせ、文字どおり、おいしいところだけをいただいている、のかもしれない。ハシブトガラスはハシボソガラスよりも体が少し大きく、力関係では優位にある。また、高いところから、周囲の物事のなりゆきをじつくりと見つめる習性をもっている。

ところで、仁平教授は、ハシボソガラスのこの車利用行動について、別の側面にも注目している。こういうことだ。ガラスがクルミを自動車に轢かせようとする時、ほかのガラスが近くにやって来ることがある。こんな時、轢かせようとしているガラスが、置いたクルミ、あるいは車に轢かれて割れたクルミを横取りされないように、そばに来たガラスを欺く行動をしているようだというのだ。つまり、クルミを道路に置いて待っている時にほかのガラスが来ると、そのガラスの目の前を飛んでほかに連れていき、自分だけ戻って来る行動が見られるのだそう。私自身はこの行動を見たことはないが、仁平教授はこれをフェイント行動ではないかと考えている。

フェイントとは、ある行動をとるさいに、通常向けられると予測されるのとは異なる目線や方向を使うことで、相手をだますことだ。バレーボールやバスケットボールなどで使われる高等技で、たとえばバレーボールでは、スパイクを打つと見せかけ、ちゃんと軽く打ち返すことなどを指す。もし、ガラスがフェイントを使って近づいてきたなまを引き離しているのだとすれば、これまたたいへんかしこい行動だと言える。

この関連で最後にもう一つ。ガラスを長年研究している武藤幹生さんによると、秋田では最近、人にクルミを割らせるハシボソガラスが出現した！ 歩いている人の足元にクルミの実をころがし、ふんづけて割ってもらおうというのだ。これまたとんでもないガラスだ。それらしい人をめがけてやっているのか不明だが、今後の展開が楽しみだ。私もぜひ出かけて行って、このガラス君に協力したいと思っている。

ガラスの生きざまには、ほんとうにおどろかされるものがある。

(樋口広芳『鳥ってすごい！』山と溪谷社 による)

注1 一般化する Ⅱ どんな場合でもあてはまるようにする

注2 徐行する Ⅱ ゆっくり進む

注3 ローター Ⅱ 交通整理のための円形地帯

1 — 線①「きっちり仕事をこなしている、という印象を受ける。」とありますが、それはカラスのどのようなところに対する印象ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア こなれた様子で難しいことをうまくやってのけるところ

イ 全員の動きが正確にそろっていて失敗しないところ

ウ 秋からクルミを貯え、人間のよう<sup>に</sup>に計画的なところ

エ 自分の能力を理解して人間と分業しているところ

オ 油断することなく自分に課された任務を果たすところ

2 ② にあてはまる表現としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 東北地方にしかないオニグルミの実を割るために、カラスたちは遠くから来なければいけないからだ

イ 体の小さいカラスは他のカラスに横取りされないよう素早<sup>すばや</sup>く割る必要がある、失敗は許されないからだ

ウ 路上にカラスを見た人間は車の方向を変えてしまうので、気づかれずにクルミを置かなければいけないからだ

エ 車のタイヤが通る幅<sup>はば</sup>はかなり限られており、その幅の中の確にクルミを置かなければいけないからだ

オ 冬は雪が積もるなどの気象条件に加えて人間の都合で道路工事などが増え、車の交通量が減るからだ

3 — 線③「人間社会とかかわっている」とありますが、それはどういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 人間と同じ交通規則を守って暮らしている。

イ 失敗を成長につなげる人間の性質を学んでいる。

ウ 人間の文明を活用して目的を達成させている。

エ 人間の持つ高度な情報を利用して子孫を増やしている。

オ 人間社会の道具に合わせて食糧<sup>しよくりよう</sup>を変えている。

4 — 線④「信号で止まる車の前に出ていくような個体」とありますが、どのような個体のことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア まぎれもない車利用の例として世界にはこる個体

イ クルミを割る画期的な方法を思いついた個体

ウ 食糧を手に入れるためには危険をかえりみない個体

エ 人間をおそれず、積極的にかかわろうとする個体  
オ 他の個体がしていないことに率先して挑戦する個体

5 — 線⑤ 「一方、車を利用したクルマ割り行動が見られる環境にも注目したい。」とありますが、「一方」より前に書かれたへ一つ目へに注目したい事柄として、次の文の（ ）にあてはまる表現を文章中から六字で書きぬきなさい。

車を利用したカラスのクルマ割り行動には（ ）こと

6 — 線⑥ 「自動車学校で十分練習を積んだのち一般道路に出て行った、と言えなくもない。」とありますが、ここで筆者はどのような意図をこめて書いていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 世界と比較してもかしこいカラスの生態に、いちはやく気づきひらめいた自分たちの功績を自慢気に書いている。

イ 二十年も練習を積んでから実践の場に出て行くことは、カラスが人間以上に慎重であることを強調して書いている。

ウ 一般道で車に轢かれるカラスが多いが、教習所で練習したことがどうして生かせなかったのかと悔しそうに書いている。

エ カラスのクルマ割り行動を観察するのに絶好の環境からカラスたちが次々と自立したことを寂しげに書いている。

オ 人間が車の運転技術を学ぶ教習所で、カラスのクルマ割り行動の技術も向上したようであるとユーモラスに書いている。

7 — 線⑦ 「おもしろいことに」とありますが、筆者が「おもしろい」と感じた理由を次の文の（ ）にあてはまるかたちにして、Aは十八字以内、Bは二十字以内でそれぞれ書きなさい。ただし、ハシボソガラスのことは「ハシボソ」、ハシブトガラスのことは「ハシブト」と表記すること。  
ハシブトがハシボソのように車を使ってクルマを割らないのは（ ） A （ ）からではなく（ ） B （ ）からだ。

8 次の中から文章の内容と合っているものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 東北地方のカラスは人間くさい動きや表情を見せるだけでなく、日本全国の中でも最もかしこい種の珍しいカラスである。

イ カラスは周囲の真似をするよりも個別にひらめく傾向があり、長生きできれば赤信号の車の前にクルマを置くようになると考えられる。

ウ カラスは交通量など周辺地域の状況をしっかりと見きわめて、車を使ったクルマ割り行動という独自の文化を発達させたと言える。

エ カラスは極めて高い知能を持っているが、すべてのカラスが効率的に動くとは言えず、フェイント行動のような野生的な行動も見られる。

オ 天才カラスは人間社会を利用してきただけでなく人間を思い通りにあやつる可能性があるもので、今後も観察していく必要がある。

（問題はこれで終わりです）

